

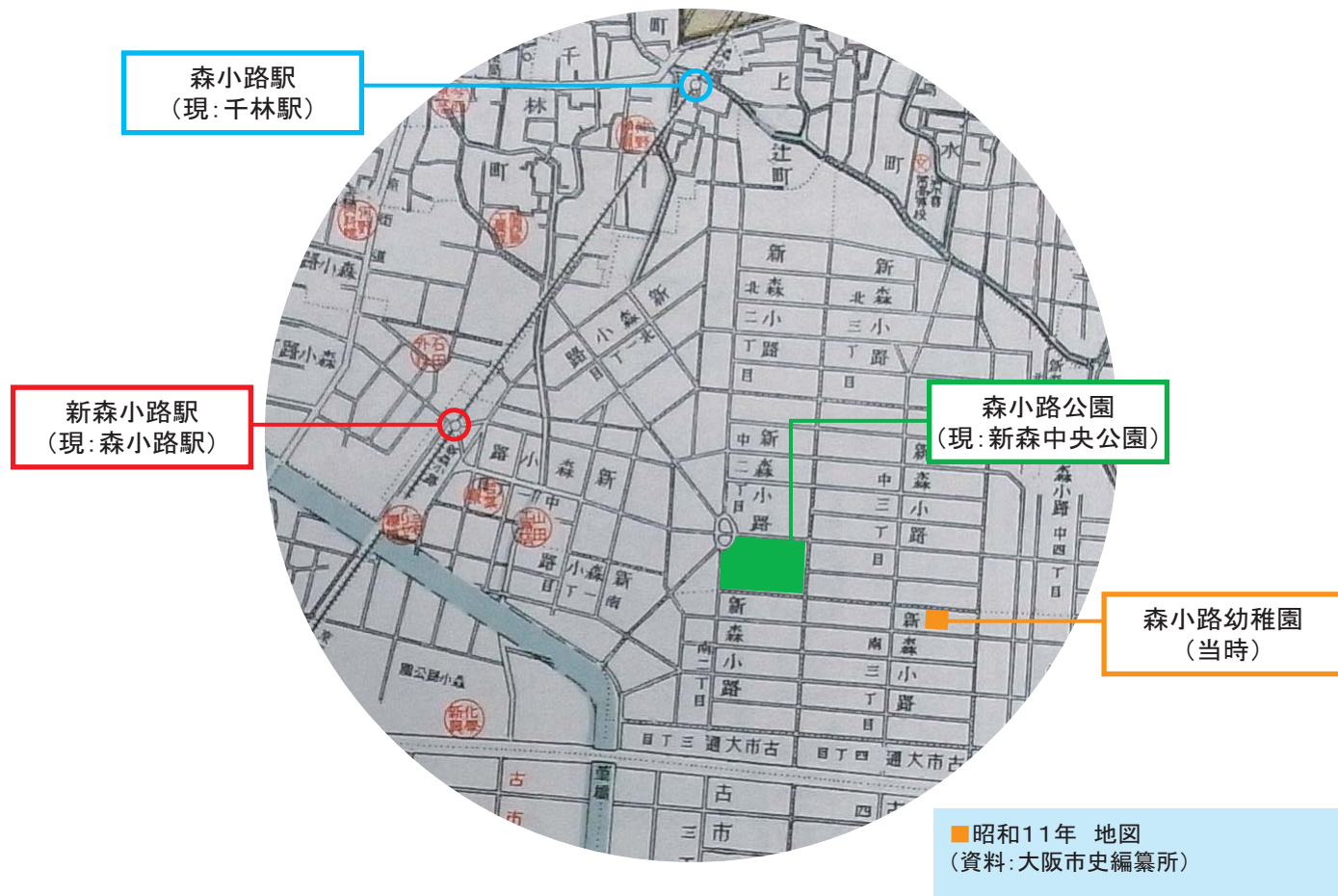
新森中央公園

しんもりちゅうおうこうえん

区画整理事業と公園

大阪市の公園造成は、大正末期から昭和戦前にかけて、大阪市が市域周辺地区の農地の宅地化を推進する土地区画整理事業の中で進められた。

旭区においても、土地所有者の組合施行により、農地を対象に道路が新設・拡幅され各地区に公園そして宅地が整備されることになり、1932年(昭和7年)市民の憩いの広場として、新森中央公園(当時は森小路公園)が現在の新森4丁目に完成。面積は8,809㎡、園内には藤棚、砂場、水飲み場、便所などが整備された。公園内には現在、森小路遺跡の石碑が建立されているが、これは1931年(昭和6年)この辺りで弥生式土器や石器が発見され、遺跡の存在が明らかになり、当地が弥生時代の代表的な集落遺跡であったことが判明。当時大阪平野に広がっていた河内潟という内海の中の微高地に位置し、その範囲は新森中央公園を中心に半径300~400mにわたると考えられている。



今も受け継がれている

1941年(昭和16年)太平洋戦争が勃発すると、次第に物資の窮乏と流通が混迷の様を呈するといった世情になり、戦時中の食糧難を補うため、付近住民の方々により公園は菜園化し、敗戦後は虚脱状態の中であって誰ひとり公園を顧みる者もなく荒れるにまかせていた。

そのような状況の中、いち早く戦後復興を願う地元市議員と地域住民の協働により、1950年(昭和25年)名称が新森小路公園と改められるのと同時に、全市の愛護会の草分けとして新森小路公園愛護会が誕生した。

公園愛護会の事業として、1953年(昭和28年)には、盆踊り、素人のど自慢、また園内に青空スクリーンを設置しての映画会が催された。特筆すべきは、社会奉仕活動として今日まで連綿と受け継がれてきた公園の定期清掃もこの年から始まっている。翌1954年(昭和29年)には植木市が開かれ、また公園祭が実施されることになり近隣の清水小学校、新森小学校、旭東中学校の参画による有志舞踏や漫才・浪曲・曲芸などが演じられた。



■新森中央公園(写真:旭区史より)

1955年(昭和30年)には初代の噴水池が竣工し、動物園よりガチョウ2羽、鯉15匹が寄贈され、竣工式典では大阪市警視庁音楽隊による演奏に合わせ伝書鳩50羽が放たれ大空を舞った。「ひょっとして、公園に居着いている鳩の中に当時の子孫がいるかも…!?’そして翌年、園内の南西角に児童館が建設された。

1957年(昭和32年)、当時まだテレビが一般家庭に普及していない頃、大阪テレビより園内にテレビ(当時は白黒)が設置されることになり、以降は放送開始の夕方頃からテレビ塔の前は力道山のプロレス番組など放映を観る(場所取りをする人も多く)黒山の人だかりだった。テレビ塔は、その後テレビが急速に普及したのに伴い、5年後の1962年(昭和37年)に撤去された。